平成２３年度教育事業

おおずふれあいスクール

自然・社会・文化・スポーツ等の様々な体験活動や交流を通して、いくつもの出会いや挑戦、発見や感動がありました。その中で自分の進むべき道を選び、今年もたくさんの若者たちがこのスクールを旅立っていきました。

１　事業実施までの経緯

「おおずふれあいスクール」は今年の１月８日で、１５年目という節目を迎えた。その間に、多くの不登校で悩む子どもたちの心に寄り添い、その心の居場所を提供すると共に、子どもたちの自立を支援し、その進路決定の援助をしてきた。さらに、平成１３年からは、対象者の枠を広げ、青年の社会的自立を支援する取組を進めてきた。

国立青少年教育振興機構では、平成２１年度に「機構活性化プラン」を策定し、平成２２年度より「課題を抱える子どもを対象としたプログラム開発事業」を本格的に開始している。開発事業の対象は、不登校、ひきこもり、ニート、特別支援、非行の子どもたちとなっており、国立大洲青少年交流の家としても、不登校の領域でこの事業に参画している。

現在、不登校児童・生徒及びひきこもりがちな青年は、大洲市や大洲市近隣にも多く、「おおずふれあいスクール」は、この地域になくてはならない存在となっている。大洲市教育委員会や県内の教育センター（適応指導教室）と綿密な連携・協力を図りながら、地域のニーズに基づく、施設の特色を生かしたプログラムを開発・実践することを目指している。

２　ね　ら　い

不登校生徒及びひきこもりがちな青少年に、居場所を提供し、国立大洲青少年交流の家のフィールド、人材、設備などを活用しての自然体験活動や社会体験活動をとおして、自立を促し社会への適応能力の向上を図る。

３　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４　共　　催　大洲市教育委員会

５　後　　援　愛媛県教育委員会

６　期　　日　平成２３年４月１日（金）～平成２４年３月３１日（土）

７　場　　所　国立大洲青少年交流の家及び近隣施設

８　募 集 人 員　心理的・情緒的理由による不登校児童・生徒
１６才～２２才までのひきこもりがちな青年　　１５名程度

９　支　援　者　大洲市教育委員会職員２名、国立大洲青少年交流の家職員３名

10　日　　程

月～木曜日とし、金曜日は学校チャレンジデーとする。休日は学校に準じる。

＜ 日 課 表 ＞

	9:00	10:00	12:00	13:30	15:30
月・火・水	スタッフ	自主活動	昼食	集団活動	
木	ミーティング	（学習）		専門委員との活動	

○　上記日課表を基準としているが、行事等で柔軟に活動を展開できるようにしている。

○　集団活動は他人との接し方、人間関係づくりを重視し、多様な活動を展開する。

○　金曜日の学校チャレンジデーは、可能ならば学校への登校を促す。

○　火曜日の午後（年16回）、英語指導助手の指導により英語学習を実施する。

11　支 援 体 制

○　運営委員会、専門委員会を組織し、活動支援を行う。

大洲市教育委員会教育長、市内中学校・高等学校長、小学校養護教諭、愛媛県教育委員会、臨床心理士、八幡浜保健所、愛媛県若年者就職支援センター、大洲青年会議所、青少年交流の家所長、主任企画指導専門職、計１１名で運営委員会を構成した。

また、１４名の大洲市内小・中・高等学校教員、スクールカウンセラーによって専門委員会を組織し、４名グループに分かれ、月に２回程度スクール生の活動を直接支援した。

○「親の会夜のつどい」「思春期親の会」「ふれあい学習会」で保護者同士、保護者とスクールの連携を図る。

○　関連事業として、専門家による講演会や研修会を開催する。

12　活 動 内 容

地域との連携や本所の人的・物的資源の特長を活かし、社会参加を進めている。中でも職場体験活動やボランティア活動への積極的な関わりを重視している。 活動プログラムについては、時間設定などの大枠だけをつくり、具体的な活動は青少年の意欲・意思を最大限尊重し、のびのびと活動し居場所が実感できるよう配慮している。また、多くの活動を企画し、興味と関心に応じて自らが選択できるようにしている。

以下７つの活動で支援している。

(1)　自主活動　　(2)　生活体験活動　　(3)　自然体験活動　　(4)　ボランティア活動

(5)　職場体験活動　　(6)　文化活動　　(7)　スポーツ活動

【主な活動の様子】

「交流の家のプログラムを活用した体験活動」

今年度も、青少年交流の家の活動プログラムを積極的に取り入れて活動した。シーカヤックは、人数不足で実施できなかったが、肱川でのカヌーやクライミングウォール、マウンテンバイク等を体験し、「何事にも挑戦することで新しい世界が開ける」という感覚を実体験としてもつことができた。

「農園作業と収穫感謝祭」

年間を通して、大洲市の体験農園を利用して野菜づくりを行った。種まきからはじまり、定期的な除草や手入れをしながら心を込めて栽培した。春の収穫祭では野外炊飯場を活用し、スクール生全員で協力しながらカレーパーティーを開催した。秋にはスクールの調理室で、山菜やサツマイモを使った炊き込みご飯や豚汁、ポテトのスイーツづくりに挑戦し、秋の味覚をおいしくいただいた。野菜の収穫の感動と植物を育てる大変さを感じた農園作業であった。

「いきいき野外体験ｉｎ江田島」〔平成２３年９月２８日～３０日〕

今年のいきいき野外体験は江田島青少年交流の家を拠点に、広島での平和学習を実施した。原爆ドームや平和記念資料館、旧海軍兵学校や大和ミュージアムを見学したスクール生は、あらためて命の重さと何不自由のない普通の生活の大切さを実感していた。また、江田島青少年交流の家で実施した「キャンドルのつどい」や「ウミホタルの観察」が大変印象的で、仲間と協力して一つのものをつくりげる達成感や自然界の神秘を味わうことができた。２泊３日の集団生活を通して、連帯と協調、規律と責任の大切さを学び、新しい自分を探すよいきっかけとなった。

「青少年交流の家フェスティバルへの出店」〔平成２３年１０月２２日〕

秋の青少年交流の家フェスティバルでは、毎年おおずふれあいスクールのブースを設置し、ボランティア活動として子どもたちに折り紙クラフトの指導を行っている。雨天のため会場が室内へ移動したが、今年も多数の来場者が訪れた。子どもたちに折り紙クラフトを指導したり、自主活動の時間にこつこつ作っていた小物類（本のしおりや髪留め等）を販売したりした。その収益で卒業を控えた仲間たちとのお楽しみ会を自主運営で開催するなど、大変有意義な活動へ発展していった。

「自己発見ワークショップ」「おおずまつり～お祭り村準備～」

ジョブカフェ愛ワークの大内由美氏を講師に自己発見ワークショップを３回実施した。第１回目は、「ジョブカフェ愛ｗｏｒｋを見学しよう！！」というテーマで松山市の若年者就労支援センターを見学した。初めての試みであったが、実際の就労支援に関する説明や適性検査を受けることができ、自己の可能性を再認識することで、視野を広げることができた。２回目は、おおずふれあいクールの運営委員でもある古森氏の協力を得て、大洲市近隣で働いている３人のゲストを招き、自分の仕事について「その仕事に就くまでの道のり」「その仕事のやりがい」について直接、体験談を聞くことができた。実社会で働く先輩方の実体験に触れる機会をもつことで、将来の仕事に対する意識の高まりが感じられた。３回目は、「話を聞くってどんなこと？」「自分らしさ、その人らしさ」というワークに挑戦した。話を聞くことが苦手な参加者にとって、人の話を聞くことの本当の意味や自分らしさをもつことの大切さを再確認することができた。

自己発見ワークショップでつながりのできた大洲青年会議所の紹介で、今年もおおずまつりのお祭り村の準備に４名が参加した。お祭りに来た子どもたちが楽しめるよう、イベントプールにペンキでキャラクターを描いた。地域に貢献できる喜びを実感することで、自分に自信をつけた。

「ふれあいワークキャンプ」

心温まるみかん生産者とのかかわりやみかん摘み体験等の職場体験を通して自分なりの職業観を養うこと、また、ひたむきに仕事と向き合ったり仲間とともに働いたりする時間を十分に確保することで、連帯感や充実感を味わわせることをねらいに実施している。昨年度から県内のひきこもりがちな中学生にも参加を呼びかけ、体験場所を大洲市長浜町出海に移し、摘みとり体験、手作業での選果、袋掛けなど、みかん生産に関する一連の流れを押さえた職場体験活動となっている。大洲青少年交流の家に宿泊し、朝食と夕食はすべて自炊しながら共同生活を送ることで、自分なりの職業観や自立への力を育んだ。

12　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：71.0%　　＊やや満足：29.0%　　＊やや不満：0.0%　　＊ 不満：0.0%

○　自分のためになった１年と実感できた。仕事に対して大人の意見が聞けて参考になった。
○　いろいろな行事があって楽しかったし、宿泊体験から学ぶことがたくさんあった。
○　みかんつみやいろいろな施設での体験活動を続けていってほしい。

○　ワークショップは少し不安だったけど、いつも自己紹介で緊張がほぐれ楽しく参加できた。
○　実際にいろいろな職業の方から話を聞いて、今すぐにやりたいことが見つからなくても大丈夫だと安心できた。
○　仕事を体験する研修や職場体験をしたい。
○　自分の中で新しい発見があったように思います。自分と向き合うことができたような気がしました。

13　成果と課題

大洲市教育委員会との共催事業「おおずふれあいスクール」は１５年目を迎え、不登校児童・生徒、青年の心の居場所として地域に定着している。今年度は、１５名（仮登録含む）が登録し、ふれあいルームや野外の活動で元気な姿を見せた。

交流の家に泊まりながら、みかん農家で２泊３日の就労体験を行う「ふれあいワークキャンプ」や、大洲青年会議所、若年者就職支援センター協力のもと、地元で働く先輩方の実体験を直接聞く「自己発見ワークショップ」を昨年に引き続き開催できた。自分なりの職業観や自立への力を育んだ参加者は、就職や進学、学校復帰というそれぞれの目標に向けて、着実な歩みを進めている。また、親の会（夜の集い）は、子どもの現状や将来についての不安を本音で語り合い、情報を共有、相談できる場として、毎回１０名程度が参加し有意義な時間となっている。これからも継続が望まれる活動の一つである。

スクール生には常時６～８名が通所しているが、小学生から青年までと年齢層が広い上に個性が強く、人間関係のトラブルも多かった。相談員の手が足りず、義務教育生への学習支援や進路指導、青年への就労支援の両面には、対応できていない部分がある。スクール生の発達段階に応じたルールづくりやスタッフの指導・支援体制を、今後も検討していく必要がある。

資料Ⅰ『運営委員・専門委員アンケート集計』
【運営・専門委員15名より回答（設問により未回答あり）】（専）…専門委員会　（運）…運営委員会

１　この事業のねらいは適切でしたか。
４　適切だった　【14】　　３　どちらかというと適切だった
２　どちらかというと適切ではなかった　【1】　　１　適切ではなかった
理由：（専）体験活動の積み重ねの中で、自立に向けての意欲や生きる力が育まれてきていると思う。
（専）不登校の子どもの居場所として貴重な存在であると思う。
（専）年に数回しかスクール生に会わないので普段の様子は分からないが、自立、社会適応のためにはセルフモニタリングが必要である。それぞれ自分の課題が分かっているのか不安に思う。
（専）ふれあいスクールを心の居場所として自分の世界を広げようとしている様子がうかがえた。
（運）地域の資源（自然・人材）を充分にいかしていたと思う。

２　ねらいに沿った適切な活動がなされていましたか。
（開催時期、時間設定、参加者のニーズ、所の特性を生かした内容等）
４　なされていた　【11】　　３　どちらかというとなされていた　【4】
２　どちらかというとなされていなかった　　１　なされていなかった

理由：（専）スクール生のニーズの把握が十分であったとはいえないが、企画した活動を意欲的に取り組む姿を見ることができた。スクール生から活動の要望があれば紹介してほしい。
（専）性に関する指導の中で、グループワークを取り入れたところ、スクール生が活発に話し合い活動をしていた。スクール生の「表現したい」という気持ちをこれからも大切にしていきたい。
（専）いつも細やかな配慮があり、活動しやすかった。
（専）他団体との兼ね合いで、体育館での活動が外での活動となった。
（運）スクール生にしっかりと焦点をあてた活動をしていたと思う。
（運）もっとスクール生のニーズに応えてあげたかった。

３　全行程を通して健康・安全面への配慮はなされていたと思いますか。
（活動場所の施設・設備、参加者への健康・安全管理、スタッフの健康・安全管理等）
４　なされていた　【13】　　３　どちらかというとなされていた　【1】
２　どちらかというとなされていなかった　　１　なされていなかった
理由：（専）スタッフの先生方が、スクール生のメンタル面を含めた状況を把握し、丁寧に伝えていただいていたので、その情報を受け対応することができた。
（専）スクールの先生方からスクール生の状況を教えてもらっていたので配慮することができた。

４　運営に必要な準備ができていたと思いますか。
（外部との事前打ち合わせ、道具・材料、活動場所等）
４　できていた　【9】　　３　どちらかというとできていた　【5】
２　どちらかというとできていなかった　　１　できていなかった
理由：（専）担当の教師と連絡を取り合い、必要な準備を可能な限り行った。
（専）陶芸教室の外部講師の膨大な準備物（昨年とは異なる素材も豊富に）には頭が下がる。性に関する指導の際には、スクール生の実態に応じた指導をするため、事前に指導案をふれあいスクールの先生方に見てもらった。
（専）いつもきちんと計画し、準備ができていた。
（専）連絡の遅いときがあり、予定に組み入れできないことがあった。
（運）お互いに要望を出し合えば、もっといろいろなことができたのではと思う。

５　組織は合理的になっており、機能していたと思いますか。
（委員会、スタッフ・職員打ち合わせ等）
４　機能していた　【10】　　３　どちらかというと機能していた　【5】
２　どちらかというと機能していなかった　　１　機能していなかった
理由：（専）運営委員会と専門委員会とに組織を分けているので、効率的かつ機能的に委員会が運営されていると思う。
（専）定期的な委員会の開催、必要に応じての情報交換が行われている。

６　スタッフは、参加者（スクール生、保護者等）とのコミュニケーションがとれていたと思いますか。
４　とれていた　【12】　　３　どちらかというととれていた　【2】
２　どちらかというととれていなかった　【1】　１　とれていなかった
理由：（専）外部の人と交流するという点においては、意味のある活動になっていると思うが、専門委員として参加者にかかわるのは、1か月に1度あるかないかなので、コミュニケーションを深めることは難しいと感じている。
（専）少ない回数だが、活動を通していろいろ話をすることができた。
（運）スクール生の特徴（個性）をよく捉え、接しているといつも感じる。

（運）まだまだ遠慮があるような気がする。

7　参加者（スクール生、保護者等）に満足してもらえたと思いますか。

４　満足してもらえた　【7】　　３　どちらかというと満足してもらえた　【8】

２　どちらかというと満足してもらえなかった　１　満足してもらえなかった

理由：（専）感想や満足度を把握しているわけではないが、楽しそうに活動に参加しているように見える。

（専）性に関する指導をした際、子どもたちの感想を読むと、子どもたちなりに真剣に考えていることが分かった。

（専）悩みをもった高校生も多く、どのような支援を必要としているのか、少し不安なところもあったが、楽しく一緒に活動できたと思う。

8　ねらいは達成できたと思いますか。

４　達成できた　【12】　　３　どちらかというと達成できた　【3】

２　どちらかというと達成できなかった　　１　達成できなかった

理由：（専）環境に恵まれた施設なので、居場所の提供はもとより、様々な自然体験活動や社会体験活動に参加することで、家にこもっているよりは豊かな経験ができ、様々なことを学ぶ機会となっていると思う。

（専）おおむね達成できていると思う。

9　参加者（スクール生、保護者等）を予定通り集めることができたと思いますか。

４　できた　【4】　　３　どちらかというとできた　【10】

２　どちらかというとできなかった　【1】　　１　できなかった

理由：（専）不登校児童・生徒、引きこもりがちな青年の全体的な人数からすれば、参加者は限定されていると思う。

（専）「集める」という言葉には違和感がある…。（参加を勧めるという解釈です。）

10　予定通りに運営できたと思いますか。

４　できた　【12】　　３　どちらかというとできた　【3】

２　どちらかというとできなかった　　１　できなかった

理由：（専）スタッフや職員の方々により計画的に運営されていると思う。

11　その他、何でも気づいたことをお書きください。

（専）登校日数からいえば、足踏みしているようにしか見えないかもしれない。しかし、ふれあいスクールを居場所として、先生方やスクール生と交流しながら着実に社会性を身に付けていることに感謝している。現在の生徒の状況は、大きく成長するために、しっかりと根を張る作業をしているように思う。

（専）スクール生の質が変わっていて、スクールの先生方も苦労があるのではないか。小・中学生もいるので、制約やルールを取り決め、その枠の中で生活させることも大切にした方がよい。女子小学生が男子高校生の膝の上に座っているのがとても気になった。きちんと注意すべきだった。

（専）充分、スクール生の役に立ってないように思うが、直接、話をしたり、一緒に活動したりする中で、こちらが学ぶことが多かったように思う。

（専）地域の児童・生徒、青少年の居場所として、今年も多数の生徒が入所し、スタッフの指導も大変だったと思う。それぞれが目標を目指し、進路に向かって努力する姿は、スタッフの指導の賜だと思う。親の会（夜の集い）では、保護者の参加も多いが、昼間、親子で参加できる機会（イベント等）があれば、親子間の関係を把握することもでき、支援の参考になるかと思う。

（運）昨年に引き続き、社会人と接する機会が設定されていた。今後より社会に目を向けて、視野が広がる

ような活動の手伝いがしたいと思う。

（運）毎月送られてくる生活記録は、大変役に立った。

（運）スクール生、スタッフ、保護者、外部協力者のベクトルが同じ方向を向けば、さらに有意義で実効性のあることができるはず。そのためにスクール側が要望していること、スクール生、保護者が要望していること、外部協力者の実現可能なことをしっかり打合せ、ふれあいスクールをさらに前進させていくことが必要と思われる。

（運）諸団体の協力を得ながら、不登校生徒等について自立を促す取組がなされていると思う。献身的に指導されているスタッフ、趣旨を理解し大変、協力的にサポートしている各団体の皆さんに敬意を表したい。スクール生の成長のために貴重な経験の場をいただいている。今後も充実するようご協力いただければありがたい。

資料Ⅱ『平成２３年度おおずふれあいスクール生の受入及び復帰状況』

	小学生	中１	中２	中３	高１	高２	高３	青年	総　計
登録者数	1	0	1	6	3	0	1	3	15
復　帰	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ほぼ復帰	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小　計	0	0	1	0	0	0	0	1	2
毎日通所	1	0	0	2 高校進学	3	0	1	1	8
通所なし	0	0	0	4 ※SSN3名 高校進学	0	0	0	1 ※計画通所	5
小　計	1	0	0	6	3	0	1	2	13
総　計	1	0	1	6	3	0	1	2	15

※ＳＳＷの３名は、スクールソーシャルワーカーと行事のみ参加　※計画通所は日を決めて月に２～３回通所